学校だより

令和元年度　8･９月号

～ひとがすき　まちがすき　いわさきの子～

横浜市立岩崎小学校　　電 話 ３３１－５１２３　　ＦＡＸ ３３１－５３４３

夏の体験や学び・気づきを生きる力に

校長　吉田りえ

今年も暑い夏でした。連日の猛暑で、熱中症で倒れる方も増え、一年後のオリンピック・パラリンピック競技についても様々な暑さ対策が検討されているニュースが流れていました。子どもたちにとって、どんな夏休みだったでしょうか。

一方夏休みは８月６日の広島原爆の日、９日の長崎原爆の日、そして１５日の終戦の日と、戦争や平和について思いを巡らす時期でもあります。

私は親や祖父母が戦争体験世代ですので、子どもの頃から直接話体験談を聞き、戦争の悲惨さや平和の大切さを感じながら育ちました。教員としても子ども達に伝えるために勉強を心がけてきたつもりですが、新聞やテレビの報道に触れ、戦場の悲惨さや戦争の深い傷跡、まだまだ知らないことが多いことに驚きます。終戦から 74 年がたち戦争体験者が高齢となり伝えていく難しさも感じた夏でした。ご家庭でも、夏休み中に新聞やテレビなどの戦争の特集をご覧になった方もいらっしゃるかと思います。また、ご親族の戦争体験者から体験談を伺ったり、戦争や平和に関する本を読んだりしたお子さんもいることでしょう。そして、「なぜ戦争は起きたのか。」「なぜ戦争を防げなかったのか」といろいろな疑問をもったお子さんもいるのではないでしょうか。

そうした貴重な体験・学び・気づき・疑問をそのままにせず、さらに興味をもったり、調べたりして視野を広げ、平和な世界を築くためにはどんな努力が必要なのか、その中で自分ができることは何なのかを考えていくことが大切なのではないかと思うのです。

地球の環境や平和等、世界はたくさんの問題を抱えています。今の小学生はそんな社会を支え、世界中の多様な人たちと手を携えて解決に向かっていく主役になる存在として期待されています。そのためには「自分から考え、意欲的に学び続ける力」「様々な情報をそれに関連づけて深く考え、真理や本質を見極める力」「国籍や文化・価値観の違いに関わらず、お互いを尊重し、支え合って生きる力」を伸ばしていく必要があるとされています。もちろん一朝一夕には伸ばせないことです。年齢に応じて、身近な体験などから「自分でやってみよう」「自分で調べてみよう」とする小さな積み重ねが力をつけていく鍵になります。

前期後半の学校生活が始まりました。9 月は前期のまとめの月です。夏休みならではの体験を心の栄養として、また学ぶ力の基にして学校生活に生かし、さらなる成長につなげていかれるよう教職員一同取り組んで参りたいと思います。

外壁工事も順調に進み、予定通り 9 月末日には終了する予定です。もうしばらくご不便をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。